静岡大学に於ける今後の地震予知研究の取り組み。

代表：増田俊明（構造岩石学／変形岩岩石学）

関連研究者：荘 燦濤（地震学/中国地震局）、里村幹夫（地殻変動）、林愛明（活断層／断層岩物性）、新妻信明（地震テクトニクス）、小山真人（歴史地震火山学／減災科学）、道林克禎（マントル地質学／岩石物理学）、（客員：熊沢峰夫、笠原順三、藤井直之、国友孝洋・中島崇裕）

（１）精密制御常時監視システム（アクロス）の実用化と地下の常時モニター手法

（現建議：３－（３）：）

気象研によって設置された地震アクロス信号の森町送信、名古屋大学の豊橋送信の開始と連続的送信が６年目を迎えた土岐送信を基本に、随時臨時観測点を設置する等して、地殻内に存在する多くの不均質構造のうち、時間変動が大きく散乱波の強いターゲットを選択して、その時間的変動の発生機構の解明を目指す。『東海地域能動監視研究グループ』の一員として主として静岡県内での観測や解析手法の改良を目指す。（名古屋大学、気象研などと協働）

また、電磁アクロス信号については、当面は静岡大学構内に設置した 600m 電流ダイポールを活用して連続送信し、～50km の範囲での受信観測を行い、電磁気的構造の精査とともにその時間変化の応答を監視する。そして、次のステップであるプレート境界の変動を検出すべく 20km ダイポール送信の準備を行う。（東海大学／東大地震研と協働）

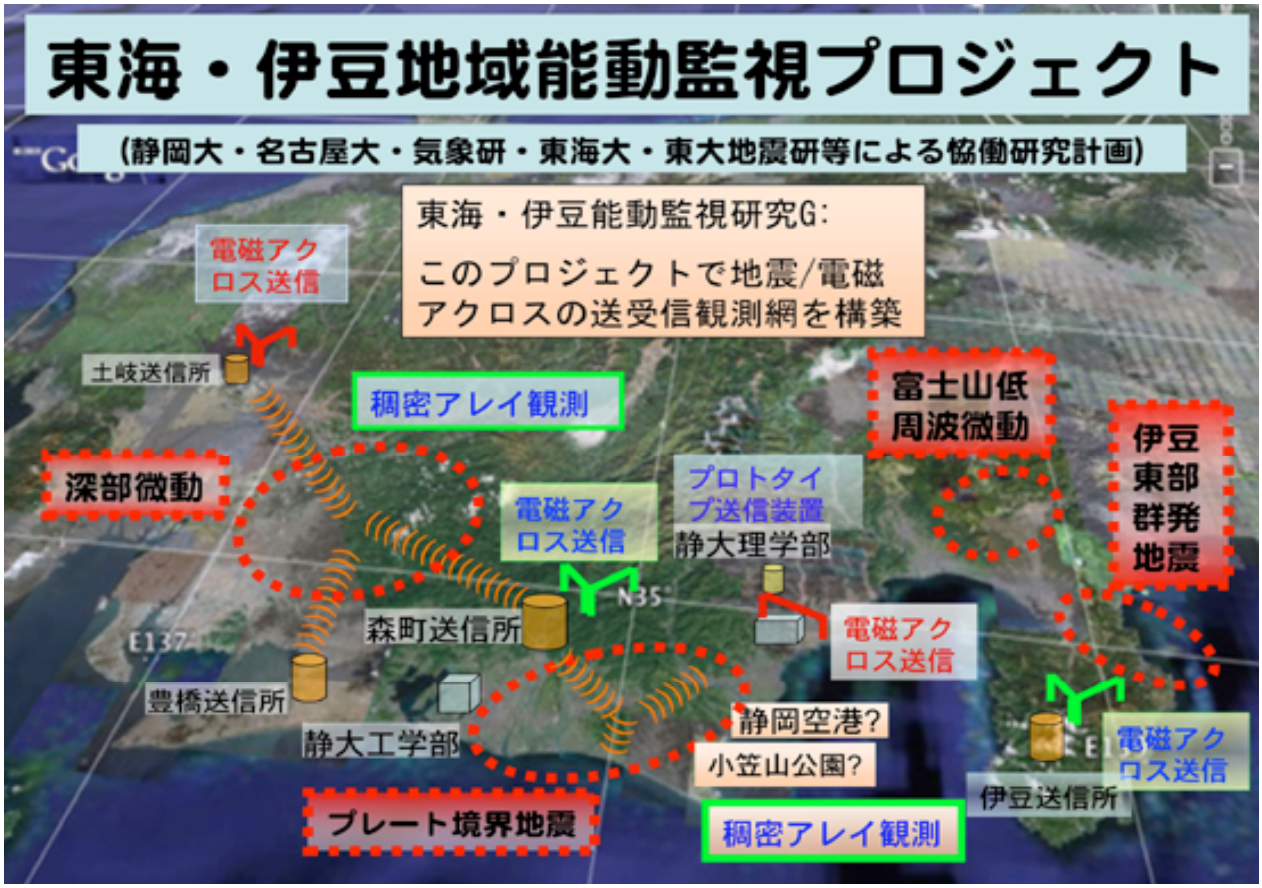
（主担当者：増田俊明、里村幹夫、道林克禎、熊沢峰夫、笠原順三、藤井直之、国友孝洋・中島崇裕）

（２）摩擦・破壊現象の素過程に関する監察と実験的・理論的研究

（現建議：１－（４）：地震発生の素過程／ア：イ.）

実際のフィールドにおける震源核形成・拡大過程の理解を深めるために観測研究を行う。具体的には、岩石の破砕・変成・続生過程から過去の応力履歴の解明、断層破砕帯に於ける断層岩の形成過程の実験的・検証的研究、その他。

（主担当者：増田俊明、林愛明、道林克禎、熊沢峰夫、笠原順三、藤井直之、国友孝洋）

（３）その他：

関連研究グループ：活断層研究 G、歴史地震研究 G、東海地域地殻変動研究 G